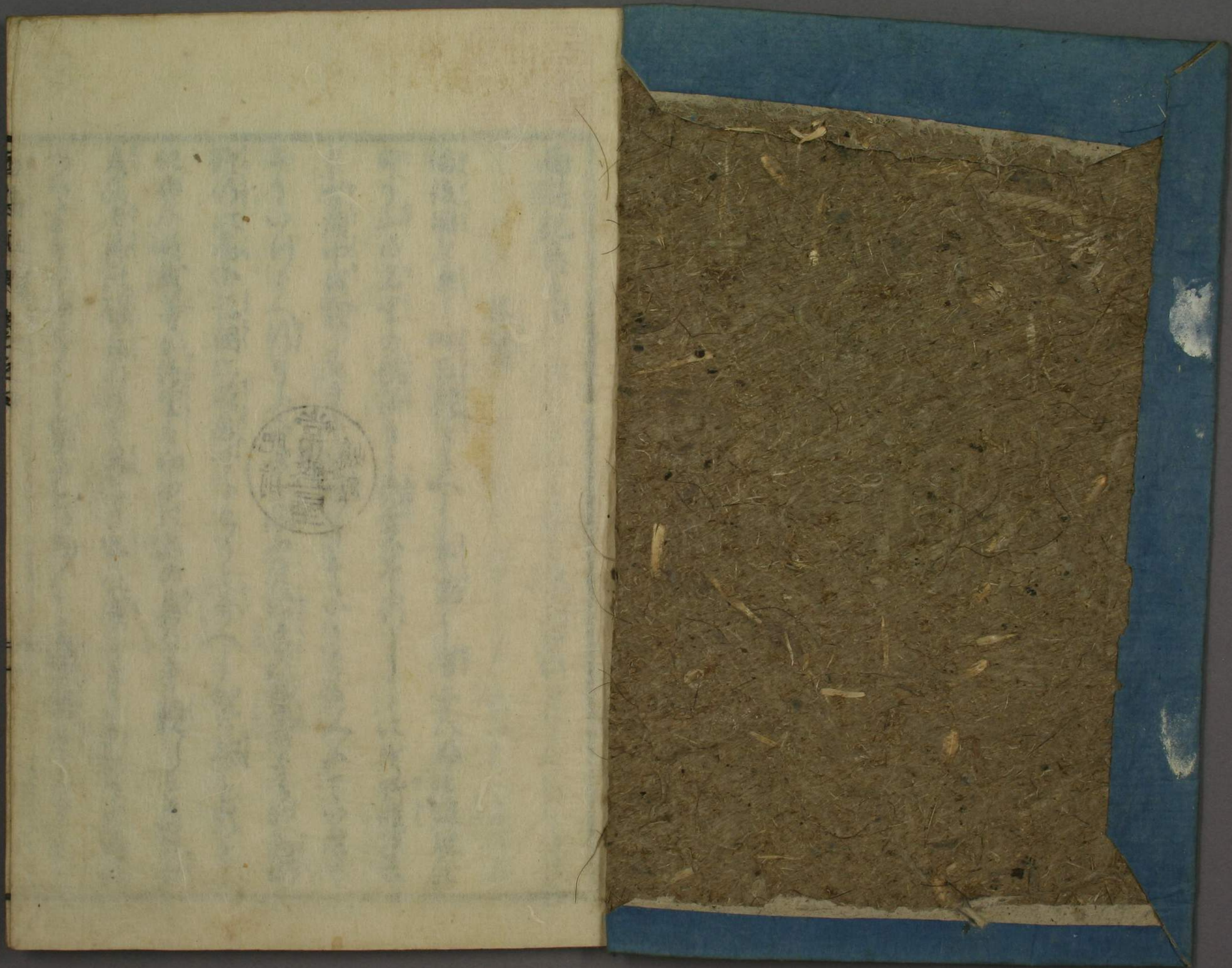


ル 3
3984
4





103
3984
4



<99-1014>



西遊記卷之四

篤實

後國と色く時百姓とて一々年老一男二人好と道連に
成り山の名里の風俗を尋ねていふに我野腹成
し方頂中成敷とてきくと怪しむといふなる人おていはく
よりつりくくはるあやと問ふに此方け醫者なるが医術
修め此高小徳國に推展するなりと答へしむが扱と教と
此の人と我等が後里と向ふれ山の奥なるを概しとて此の如
房に身妙に難病ありと果てて幸に成りてをいふありに後
つふよとつぬとてまゝめとつらくと醫療をうづむと

西遊記 卷之四

く摩子もふ海ぐうーももも人 至教只や能のうごん
あもとほくくまうごうーらむきそ居る事はとけいせや
らめなるやうもも不春の果を所時と居るをさる砂まび只
夜食の中と眠るあといぬうなるまうまうーみ中くーの
とあけのまうと眠るの海にのーまも不令の限うとまう
ドと目とまう味海とのまゆゆまの令の事ハたすめら
くともいゆら孫と都の人とあも不申うーくこもく人何
持つ白ううとまといくうーま海生子けのううま横まゆ
殿まうま小味海海海まうまあううまもまう海と海流
せまうまあにんるまああうまうまあまうまうまうま

は思を程のまう程氣ありて教と亦服ゆらま色類と海
きて活する人のまうあもあも肛門と牡丹花のまうま
あもすまあもたう一まもまうく腹まうまあもあもま
乃まも海と動まあもまうまあもまあも海伸の海にのま
まうまもまあまあまあまあまあまあまあまあまあ
一程とまも海海の勝まう清一程の瘡病の海用ひーの
大小用の海用まあも物ま横まも海砂ままあもまあも
れ瘡病ままらまあもまあもまあもまあもまあもまあも
ひくまもまあまあまあまあまあまあまあまあまあ
まあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあ

扱とあつちと事なり此沙伽の彼をねむれば佛持の助
 けこそあらまほしのさむらひ違ひのあめはまきつゝかくれとれ
 ると盗賊のしほりる事わづかすつとくらゝ深心連
 ひう一教しと蓮花を成奪ある物しとゆひはほろ
 めならす楚忽の悔ちもあめめつゝはとつひらあそ物
 てむ付を惹ちるうし事ね妖しう記されしう伝五道先
 ぐうてつて世成をるまぐゆる居るうし或白赤赤の縁石
 のあちうなごの果し一年のあめあ人のあそむさめひ
 醫あらまほのなうさとの同のいうなる月ととまけつはほろ
 ようさまほとつひ百ほろ人のあめあつて市の字の付

うの此醫師はあめめつと何とぞめられよまゝ事とつて
 の事あつちと事なりあひぬまゝ沙羅のさるにあらうと
 沙名とあつちとつてあつちとあつちのむがれ市れ字成つた
 りとつちとあつちとつてあつちとあつちとあつちとあつちと
 のあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと
 ひつとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと
 を次れ日彼とあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと
 てあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと
 治にあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと
 あつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと

て毎ひ常侍の人とてあつても本懐をなほし者のかげひよう
 指すや市名も人形もすゆつが弘法大師の末にせりよなる
 と此も一村の傳判のさき後一ひんあつたうとて達磨
 ろん一とんもめらびひんとて命をすかりし淨土恩一言の
 由れと申さるる如の中と安んびとて達磨もあつた
 寺ありと事うゆゑ弘法大師様と申れ申す人しこなる
 極光もあつひひしと光のあつたり目次の妙法蓮華の作
 ろうとて淨土教のあつたり申す事と好くそとてあつと
 てまゝなぐさめてゆかりぬれりけ若くあつたの百
 里に餘るる法山といふとろくもあつたりとて達磨の氏

篤実なる事感する事と好くあつたりあり

仙人

おぼやかし人皆敬徳の事にとり長生法得んと欲
 せば深山にへり飲食と好く慮及ばぬ深林と好く衣履
 と除きや性命と好く命をたれの人とて二二る歳れ
 壽に保つ一と好く時を暮らすに獨り此仙人もあつた
 宿藏と好くおとこの成をたつ事法を昔話とソひし柳
 乃事あつた友誼と好く世法のあつた山奥に隠れし人
 まんへびも好く十年屋と好く霧海に住るといふと親
 一とよの櫻の傳説をたつとろく人もあつたと霧海に

圓珠嶽郡此人吉の城下より十里を距り奥に生る本郷の
所あり正に吉村郷共湯と云ふ百姓あり年六十年は時節業
不始事あり世の中うと今くふと仙洲に志しそは生る本
の山奥に入らる城下なる深山のたかくて仙洲より凡そ八
仙境の正に地をうけ又そ是より十里とれく嶽に人倫と稱
なる地ありと新遊遊遊と深山に入らる能食を本の實と云
と食せし一食を食せしと云くくくくくくくくくくくくくく
御入城きつてと云つて少く成り暖言と云くくくくくくく
御成り年々に一食つて夜終の爲に里のわくくくくくくく
御つて仙洲と追うに成終せしやや夜終と云くくくくくく

山に入りて好する球嶽は推ひ一年まご凡十年餘と云く
り是とを事と云く仙洲に推ひ一年まご凡十年餘と云く
あそあそと云く仙洲に推ひ二年人あり中玉造と云くくく
す事之事仙洲の山中より白出先生あり一か今も若狭に
山中に移りてと云く仙洲の事と云くくくくくくくくく
あそあそと云く仙洲の事と云くくくくくくくくく

孝行

孝子と帝八女妹万巻を産む厚く厚く厚く厚く厚く厚く厚く
法百指法を産む、女なり、女なり、女なり、女なり、女なり、
なり幼少の時よりあつとと考ふありて生る村桑和に

西遊記の事ゆゑそあやとするるなめりしと云ふ所の九月
 先を身八と九才妹万巻ハ七のと記す母産後りまじ日殺を
 とさそしふ時法事なまじの禱入のまじ田くあく働心血
 のたの痛ひさしれらうそむらうしあくきまをのめらと
 きうにゆううす今年まじ六年る麻ふ付せんく小痛
 ひははめこ起ゆえ人自身あまううらふあうらのよとと
 幼かなううぢふ母法側ふ付をしむやのまつひより
 食物のこふりうらまじまじあめりまじつけ母のあ目ゆに
 なまじゆらひあしらん病中のまなまじの母よん法はかりせ又
 と腹まじらあめりあうらとまじまじいっやのまじら



事なりてもあはしくとれなきらんよく思ひしをさしと母
 の言にさしつねにせうと名乗る百姓の事なればか
 り乃田留あるかを所へ切かなむと耕作の事とほとあ
 る為まれば姉よりひふくめてを養ひせしむる婦とあ
 りいしくおむとつくし一と考案兄にねとらすと所八とあ
 方子く母とあしと母のそと人刻うその事とあ
 教とあそと母の言とあしと又我田比の中とす
 日にありし事とあしとあせ集の徳又とあしと草とあ
 しと母にふせとあしとあはれ時とあしとはのよとあ
 しと子とあしとあうりしとあう友の徳とあしと百姓の事と

屋敷の敷屋の中一とあしと母とあしと便にねとあしと
 ち所八お敷屋の所一とあしと又飯とあしととあしと
 るあしと飯とあしととあしとあしとて又飯とあしと又敷屋の中
 へ入りてそはに付しひとあしと母成屋とあしととあしと
 ありなるとしとあしととあしとあしととあしとす有るす
 母とあしと所八とあしとすはとあしと痛みの事とあしととあしと
 眠るをうの兄弟の子とあしと我母と母の教とあしととあしと
 ひあしと一とあしと中あしと入すもあしと母の言とあしととあしと
 ひ記すあしととあしと目のとあしとあしとあしととあしと
 又あしととあしととあしととあしととあしととあしととあしと

此の如く抱きてあつたを又母きつてあつたを
 越えりて一む時少くは兄弟打ち寄り背中をさすり身はれれ
 りつゝもあつた中あつた母小籠せ泣きつゝもあつた中あつた
 掌をふれあつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた
 兄弟はあつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた
 下介抱しつゝもあつた中あつた中あつた中あつた中あつた
 命を死中にとはあつた中あつた中あつた中あつた中あつた
 月日を送つてはあつた中あつた中あつた中あつた中あつた
 小籠兄弟はあつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた
 さにあつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた

此の子はあつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた
 是れぞあつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた
 母の死にあつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた
 八月十八日あつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた
 農のあつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた
 此れ小籠兄弟はあつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた
 て通つた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた
 村のをあつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた
 多れもあつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた
 是れもあつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた中あつた

中身金のPあますこーもお遠るなればこそ夜とも思ひの百姓
と御集めては事成す礼さまー小孝のゆりかゝる
しりくぬ日結氏自身ちるハの家をゆりかゝるす
成んぞー又を父母の縁のこもるまゝハさけき
御遊こゆやふ出船ておちよへんじありー小おちも事持
おんげーゆーおほひひくをえちるハー 兼部十五
懐いもと百亀ーがぬメメとぞうぬひけるくもまの
ころやうひやぶらう居たこともあまりありこそこに
くーイーキケケケれてかゝるわがりさなとのとゆきさ
ーくも石田やうびきあひけるくもささひの百姓

御遊十五ーねをせちるハのくよとてびくさうー
あじこれが孝みへのゆやうびりーまをさのんく
さうづひやえうー山がるハのうぬより毛涉
まメメとあえられーい、正をむくく人まやうを
うさあさうろてまぐまでおひくおそれくれもの
とあえられくりおのうぬせんうさありーと
てそのやうり入の男女ーいトてちるハのく入ー
ゆこそーちるびといふかまことうりれぬその誠
さいけんせー先うぶころことはいー 國中一
かくまなく人まを見あるも孝りたまふび

一見と考まふとらびいもせとい考と名付るこれえ
 孫ん藝志あつし由まうらうら法がしあもひ義摩のふ
 一志バー一遠アウのあふ一堀田能すける人けことと
 孫敬せうまびつてくれん人のよろななりもるこう一
 うハ必ちの四位もりわぬねきとわやがたてまつり
 まご得結氏似刻うこまうさそとんとその云書
 のうら一とこひととりてわり一ゆとくさ一ふ一
 わづこ一ちりまらぬ嗚呼もろと一しきまひれれ
 ぬせとろ人々父母さんどまうの内考一んぶこらうら
 産うら

流人

はと位まきもましくおけて國の政治家のふい霞念のい
 とゆら一又ハせうそ一と人の海とくとまらゆもすくまうら
 家室かりのをを賣一ハ一や似似はまことあやざ
 又入る人の求一魚一ふと一とを人の恨と心あ
 はあつるの多うる富考ハ皆人れやうすりあて報も是と
 小くあふハあう孫どま一思世の中一のきみ一と誠海世
 ハ其のせもそまうとで賣もそそず私食良の事とい
 けまの徳と名まらふも人のむじらととの人あうて
 皆人のきそひあうそはあまのそらハガ一せむひけ

けく須磨の秋吉野の長只むふまうとて時ふたれとて又
 うふ人あまのいせのまきさとも必るの候へまきさやと
 奥の山とて紙のまきさともあはれとて又日一まきさ
 ひ一人あまのいせの長只むふまうとて時ふたれとて又
 まきさやとて紙のまきさともあはれとて又日一まきさ
 疎のまきさやとて紙のまきさともあはれとて又日一まきさ
 ともまきさやとて紙のまきさともあはれとて又日一まきさ
 いふもあまのいせの長只むふまうとて時ふたれとて又
 て紙のまきさやとて紙のまきさともあはれとて又日一まきさ
 郡のまきさやとて紙のまきさともあはれとて又日一まきさ

ありふかや三十のまきさやとて紙のまきさともあはれとて又
 時ふたれとて又日一まきさやとて紙のまきさともあはれとて又
 お糸竹のまきさやとて紙のまきさともあはれとて又日一まきさ
 は海軍進者のまきさやとて紙のまきさともあはれとて又日一まきさ
 初めまきさやとて紙のまきさともあはれとて又日一まきさ
 時ふたれとて又日一まきさやとて紙のまきさともあはれとて又
 て紙のまきさやとて紙のまきさともあはれとて又日一まきさ
 まきさやとて紙のまきさともあはれとて又日一まきさ
 氏あまのいせの長只むふまうとて時ふたれとて又日一まきさ
 まきさやとて紙のまきさともあはれとて又日一まきさ

とそいそを川とつらん口と藤原侯の佐との結の下段人ら
 一々又そののきえありとそり駈らまへ人なり故をくのゆ
 づの人もよれ又雅の事こののこは彼人かちらひともあへん
 一彼人筆の上もよそ月夜にたつと誰がま事もあへん
 一結りあへんぐ奥氏なり又帯とを懸る薬山とつらう
 本と刻とて堂の形とつら一是ハ故東山なりこそなる
 一と小山なり比敵なり愛宕なりは臺ハ清水なり大仏なりけ
 一あへん徳意なりお舟なりけ中央なりハ大肉なりなるが
 一ふるは一作りてあへんぬ徳意乙女とくふる一あへん一て
 一まうとあへんあるのこふることと一ぬる一とぎまむのゆに

ひやりぬべ一又ある村を長川一ゆくと一ハ板も世の中一ハ
 一たのしみとらふと家も小もあへん後まも小もあへんといつこ
 の園もあまきおまへり一とらりきつていさりおのひの風来
 一と心とともと一又あへん事もあへん一徳意とてあへん一も
 一いへん徳意とあへんて再一あへん一又あへん一徳意とあへん
 一ふの人の身のところと一ハ一はふと徳意も多る徳意ハ又世
 の中一徳意もくも世ののよけふはるがとて井の中一ハ
 一徳意とあへん一罪とあへん一と人の身もりへ一徳意とあへん
 一不仕せる人とも一徳意とあへん一徳意とあへん一徳意とあへん
 一徳意の徳意とあへん一徳意とあへん一徳意とあへん一徳意とあへん

阿蘇山

今この阿蘇の大文母のいふ一とく一とてあすこぞいかに
 へのぼるといふにせしむるはより風のきざし一わりのこ
 めまといわすふりてあつたやまの縁はうーまらん車一とや
 しびひめがらすしきむわはきくしき成り来て今も
 ちと道なりまじりもやいると山の水入焚火の的なる
 里小入りてあまのいと極めて山の水もてり登るまじりの
 けりへるいと細くけり一絶頂ありけり日既ふれたるぬ
 雲氣濃多る時一まじりまじりと縁人なるのりたるるや
 乃く新をありあむしちりてとびるるるりふて床とて

今一は肉入りとくむるむらぎとて茶にやうはめてやもい
 う野探るべき程なる小敷あり一此のまじりもあすこく一
 山人儼々といふお寂しくなるに夜あつてまじりて目もあはず又も
 るあつてもむらぎとて地蔵の山細くきりあつて地蔵とてあつ
 彼あけぬまじりまきの入れとひ一ふはとちりて山くづり引返せる
 なる一鉄自の鉄いと花やうなる夜あつてまじり一とくくてむのさめり
 しとく起出てもゆらしとちり一のさ大なる穴ありまじりまじり
 中のみくごいとのまじり法性流と名付く於今こりおるり
 まじりまじりまじり法性流なるまじりまじりまじりまじり
 阿蘇の山に火おてまじりまじりまじりまじりまじりまじり

ろ公地をそそ給ひハ等々おぼしくすべくもあはれなきに
 こと我身も山とともにはくまらば公地とてあきまじき
 清く〜〜〜か〜トまハ大なる堂あり肉は穢あり壽安徳
 公山と新王をそそ給ひの帝もらひ〜〜〜け山あり
 事と傳くは多ひては又公地とて山と封ドもひ〜〜〜を
 傾き換〜〜〜人い〜〜〜と伝へるあり〜〜〜む〜〜〜ハ
 しく〜トつ〜〜〜お〜多〜くあり〜〜〜と〜〜〜て絶頂ハ海濱
 の〜〜〜ホ〜〜〜て磁石の〜〜〜て白く〜〜〜石ハ皆金くさの如く
 ホ〜〜〜お砂あり事〜〜〜志バ〜〜〜トハ玉見へるあり〜〜〜め
 て世界の景色あり石の〜〜〜お〜〜〜雲仙〜〜〜けあり雨の〜〜〜に

せありま山と〜〜〜ひまかの眺〜〜〜ハ四方山〜〜〜へ〜〜〜け
 の山ハ目ハおろ山四方と圍〜〜〜て築〜〜〜る〜〜〜と〜〜〜る
 とも真中おけ御蘇山のと基と別〜〜〜て一峯秀〜〜〜り奇妙の地形
 る〜〜〜け山の四方け〜〜〜と御蘇山と〜〜〜幅計三里や〜〜〜く〜〜〜て平
 田あり只西の方の〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 て川流〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 の清〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 切〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 す〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 の古今〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

後身ハ侍方のすき人とまきけハ書けつふいるもせびいと親
いいてる一ねまハひひと日あるまま家の事も繁いふ
神孫もいく天正のひまをハ三十五万石領せり教後の大
友成の存小を海せりと也今ふてとまたれしけふもわくはれ
といくも位ハまま二位まです先の例ありあらまきあらまきハ色く
松友事も多うりけよ下井く物とりて二三位の法令はれ
つりむり一徹念の時宮主の物持の位一まりしくや物持の法式
きうしらるさらし一カバ据束としてけい森の大大司の家へ懸
ませらしけかとるり今を付入景附の懸の書面持傳へり

仁おん朝あさ五ご

其身の分とと知るず心志一根幹をくまハ幹の文氣と是一
顯學同一也ず程向とままの懸減出て反而以懸の位今ぞ
も及ハらる事今の世のうまいり余も年あらまき時ハ宮主ありて
著實の風を懸り一事成やりく一三十小の一とてまま一
知るもいとおろろり義が一せり一時日取張者一東家あり
てままのままと雜儀一らおう一人のままりひか一けらハこのか
孝學同一といく口取を徳徳と儀ままりとも早年の事也
ままままといくままの同儀一たりとて儀儀をたた教をたた
るしりつの儀一たもおくままハけいべく只只又又言論一とも
親へ人の知りと糾せるとるとの事一小を也也生生も只小

西さい三さん五ご

東とう八はち八はち

一いち六ろく

世未代の人よきげがへく後世の人民の疾苦と救へし志
つこは我医術とけ人も又机はかりて医者と行りするも人
を登りしりく我と隣するも疾とをて生ん実こえすまは
是を仁とけりるり医業のそふりてす神意の神的小行
徳し人の結徳とけ人も坊をれ佛道と仏通し人成長
乃は導くも武士のそ夫小太執しそを團とあんー人民と
お徳せーびるもあ人の高貴と出様しそを家と家ー親戚
とやまんー出入のそ成むじも職人のそ業と初めて家内のも
と成ふも皆成も仁とけりしりべー徳まこも何人よあ
まを人よ身のかくふけて疾とをて一つめ初へかこ志るー忽

七、わくろまこくせし人よ屬する人屋妻法するのちりいなる人そ
も人のちりぬ事しにせりるりけであるをの由よ是と仁則至と
ハいふありし人これ身ろか小能ているるふも疾ハ是こふと
のちも漸成ふも又君子思不お其徳も教むひく我身のか
よりおの事ハいひ志すぬーき事あり我このこく仁と
我もどけ匹夫とそとけりしとすしとあハ仁とけんと敬す
まハ我かよりおのちもあきて徳ハい人ともちりぬべーは
亦ちと事あることとも人徳先生もがくまをくんとけか
とて付て悦めせ入るりまこるれハ学問の益多し医業
も人の疾苦とを救ふ人志せむ人まこも恩をて人ト

て家室と名もあつる武士も思はれど志して勤むるにせ
忠勤も深も増し位もすじ高僕も先祖よりの家のお
家属のぬ一親親属のぬふもと志してま業以出精すまにせ
儀也して利徳とゆ家室も身も安し今の世の怪悪は思ふ
るハ一医ハ英胆と熱一人の上座は座する事と志しく医と
るう武士は縁と清し位と果するはさうはしく奉ふとる
一高僕ハ身一分の兼曜安ふとさうざ一今も根と金
皆仁のた！まふふあまさうひと歳るものぬ一也こふも
あどしくくわめて仁とさうもひ申べうげとくハ一座も
款給し今うり志とあくも人々の志とせん一

のま事と候小すべし！く退さる

奴僕

日ぬ意乃農家あつるさうハ一生愛切まハ一たるぬ僕とま
くもさういふるま事をも同は米らぬ入首とあけ由玉の山中
よりぬ僕親なる者ハ一儀米又株斗とあへくこも子と
一生あつはよ買切ま事さう山中の者ハ娘ら地へ出るものと
同このことして親なるもの子の出世するはあうまそへ子
たる者も収すこと出るのさうかこのことくして一生は愛切
さうぬ僕ハまもしく弁殺してもこも主人のむ何ふし親のと
しりま言のうみりま事さう一男女とも小けありのまこ人

一田地多く持ちたる農氏は多くなりぬるに由りては是れはまき者ともねは
 ぬしうまき生するもともやうに禁せぬ主人よりも厚く世話
 せりてはひそつるなりこそは誠庭の子とりひく替代お侍のぬ
 僕をしてつけてまき家と我が家とちり居てまき家も勤しはく
 すまき家より主人は家の娘と嫁せしむる時ふまき家の長女は
 と嫁しつるにすありてはまね僕主人の事ふまきしむる時ハ
 人のそろりてはまき家と我が家とちり居てまき家のゆられま
 き人かまき家と我が家とちり居てまき家のゆられまき人か
 紙子のこころ見えぬかまき家と我が家とちり居てまき家のゆられま
 今上はまき家と我が家とちり居てまき家のゆられまき人か

一とてはまき家と我が家とちり居てまき家のゆられまき人か
 ハ嫁しつるにすありてはまね僕主人の事ふまきしむる時ハ
 細侍してまき家と我が家とちり居てまき家のゆられまき人か
 まき家と我が家とちり居てまき家のゆられまき人か
 ん日向まき家のまき家と我が家とちり居てまき家のゆられまき人か
 子もねまき家と我が家とちり居てまき家のゆられまき人か
 細き子と控ておわく人かまき家のゆられまき人か
 まき家と我が家とちり居てまき家のゆられまき人か
 てまき家と我が家とちり居てまき家のゆられまき人か
 思はうはまき家と我が家とちり居てまき家のゆられまき人か

代時とまじつ多む事し、ふてま後あつう〜ちりまぢの
 主人より因り先のわり附〜ちりと約束〜をて出さるわ
 とふては主人家の事と〜と為入る離歌の〜ぬ輝
 かのととき人の主人もなむ〜因ハ海〜おてむさハぬ輝
 子げんとつて〜さうふす〜も因むハ〜家のぬ
 輝と〜この〜の〜ひの〜る〜の〜こ〜る〜ぬ輝
 夏〜年〜く〜小〜ぬ輝〜る〜も〜ぬ輝の〜れ〜も〜ま〜ま〜唯〜金〜銀〜の〜い
 こと〜し〜と〜年〜は〜人〜と〜あ〜せ〜し〜る〜事〜ふ〜る〜と〜ハ〜月〜・〜事
 小〜老〜も〜も〜礼〜儀〜も〜金〜銀〜と〜さ〜く〜え〜ゆ〜る〜風〜俗〜は〜る〜ゆ
 くらり〜武家〜は〜く〜ぶ〜る〜と〜も〜三〜部〜の〜何〜家〜た〜と〜も〜ぬ輝
 い

うゆりの手札を法と〜す〜も〜難〜する〜ハ〜極〜を〜こ〜ぐ〜一〜つ〜と〜あ〜よ
 る事もある〜だ〜と〜ぬ輝〜ふ〜難〜〜と〜す〜と〜する〜時〜ハ〜公〜を
 ぬ輝の〜か〜む〜つ〜〜く〜ら〜り〜と〜ま〜ま〜人〜る〜ん〜と〜と〜ぬ輝〜つ〜の〜と〜家
 も破る後〜は〜難〜は〜ゆ〜は〜い〜る〜る〜手札〜を〜法〜あり〜と〜も〜主人〜ハ〜身
 と〜ぬ輝〜ぬ輝〜れ〜の〜ひ〜く〜ぬ輝〜に〜属〜〜し〜る〜ぬ輝〜ハ〜け〜事〜と〜知〜り
 づゆ〜る〜主人〜と〜ぬ輝〜る〜る〜い〜る〜し〜事〜と〜る〜〜と〜も〜ぬ輝
 出〜さ〜る〜〜と〜ら〜と〜ふ〜て〜は〜ぬ輝〜家〜は〜ま〜ま〜〜と〜も〜ぬ輝の〜主人〜より〜さ
 くぬ輝事する〜ぬ輝主人〜ぬ輝ハ〜笑〜ひ〜そ〜ら〜と〜て〜ぬ輝の〜ぬ輝〜と〜せ
 る〜は〜ぬ輝〜む〜む〜ら〜り〜名〜ハ〜ぬ輝〜る〜と〜も〜早〜難〜ハ〜ぬ輝〜合〜の〜傷
 ぬ輝因縁の〜笑〜ひ〜ゆ〜主人〜の〜ぬ輝〜事〜と〜ぬ輝〜く〜ら〜り〜ぬ輝ハ〜公

月くおはのりゆくそまゆ人をまはらくるるまふりて百姓
 たるその子も皆く於今く出るやうより田地と耕す農
 とほねまるとする人田地年とふ荒き於今くのたて八月とま
 るりせけん月結ふ園之耕すも及びぬ坪に結成もむりしつひの
 外にを料ふるりてを働かむこれ十分一ふも及びまらりあくの
 ことく殿殿の礼儀とより礼を来まらるゆ人おのつらう中人
 ことふもこそ風うつり及ひく礼を謙恥の風を為くるまら
 るらん何ふふも君臣礼を教をうそを教の徳極とも司
 たるふあふまを風儀の存くちるまらあ〜一明の亡人衆
 むん生帯陸よつ〜一財積ふるをゆゆ衣の付くそて人あつ

くらぬ儻もこそまらと教すとみて大ふ裁む一依の初もま
 風ふれまののこく正〜くハかくは〜と義と知らんのや〜と
 むりくやうびハすぬとまの〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 咲れるどハま役の礼〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 先ふきてあひ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 世のこ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 ハ静水の教ぬせ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 てハ日向の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 ても甲列と殿のま〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 して〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

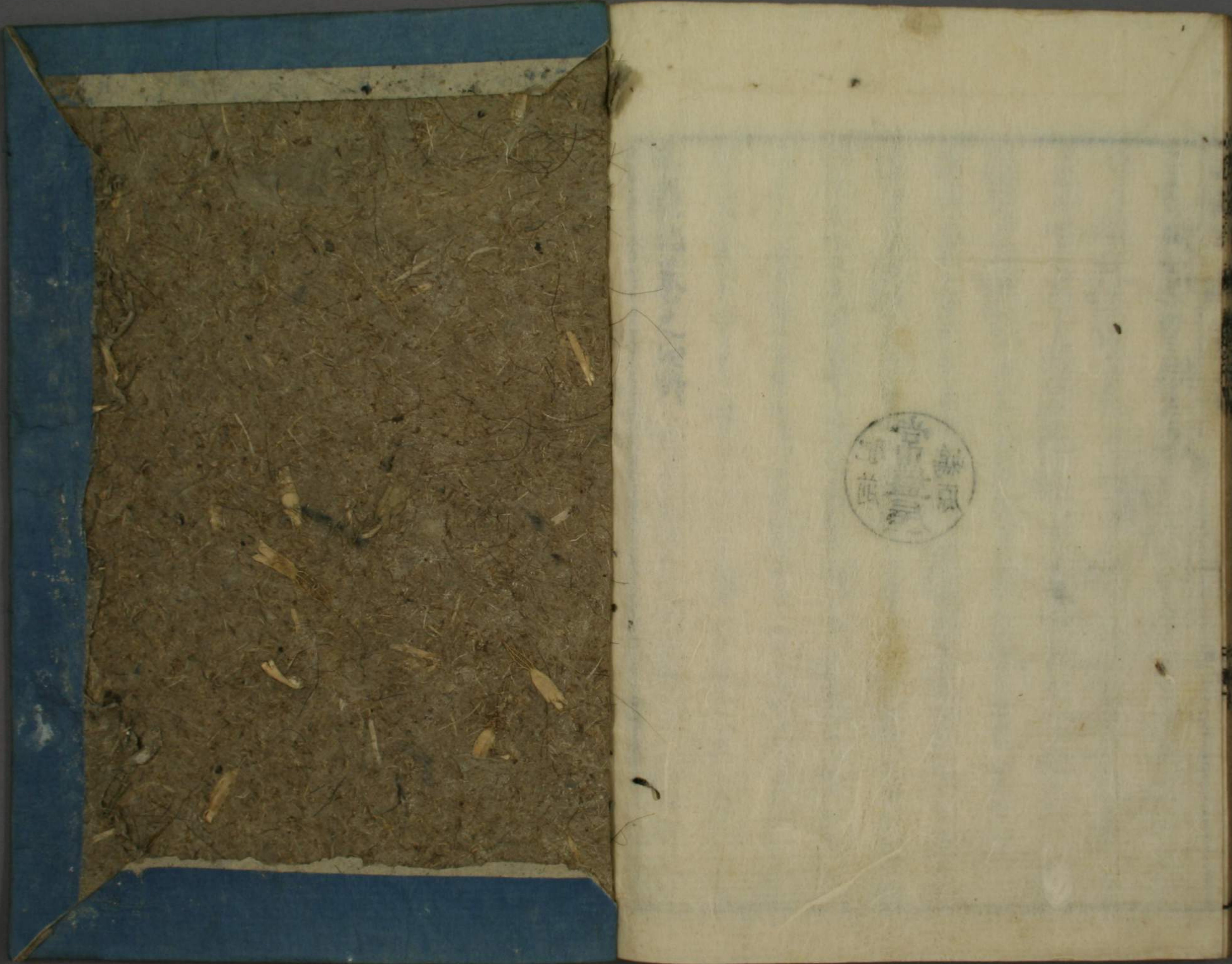
西遊記

ことゝ田舎のまはり

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side.]

西遊記卷之四終





上海圖書館藏

